

---

# バカとテストと恋物語？

つりしん3

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとテストと恋物語？

### 【Nコード】

N6293Z

### 【作者名】

つりしん3

### 【あらすじ】

ある日、転校してきた二人の男と女、男の名は工藤修也。本来ならAクラス入り確実だったがめんどくさいと言ってテストを受けなかったため、Fクラスになった。

こいつらが織り成す恋の行方やいかに!?

ムツツリーニ×愛子、雄ニ×翔子、明久×姫路、美波×オリキヤラでいくつもり

## オリキャラ設定

工藤 修也くわい しゅうや

### 容姿

顔はまあまあイケメン。髪は茶色がかった黒で、目は黒

### 性格

普段はテンション低め、アホっぽい

### 年齢

明久たちと同じ

### クラス

Fクラス

### 身長

168cm

### 体重

50kg前後

### 得意教科

古典以外

### 苦手教科

古典

### 召喚獣

執事服の衣装で髪と目は本人と一緒に、武器は日本刀

### 備考

父が外人で母が日本人のハーフ、そのため髪が微妙な色、本人いわくコンプレックス。文月学園に転校してきた。その理由は単に面白そうだからという単純な理由。Fクラスになったのは、面倒だとい

ってテストをほっぽりだしたため。成績はAクラス並。姫路のことが好き。本作品の主人公。

桐谷 汐きりたに しおり

#### 容姿

一言で言うと美少女。髪と目は茶色、

#### 性格

普段からテンション高め、アホ毛がある、

#### 年齢

明久たちと同じ

#### クラス

Fクラス

#### 身長

150?

#### 体重

40kg

#### 得意教科

理数系

#### 苦手教科

それ以外

#### 召喚獣

メイド服の衣装で髪と目は本人と一緒に、武器は大型のピストル

#### 備考

明久とは、いとこの関係である。修也とは幼馴染。髪がきれいな茶髪なため、中途半端な髪をいじめている。文月学園に転校してきた。その理由はいじる対象がいなくなりたくなかったため、修也を追い転校してきた。Fクラスになったのは面白そうだからとい

う理由で名前を書かなかったため。成績はAクラス並。

第1問 転校生(前書き)

さっそくはじまりました。第1話、こんな小説を読んでいたばかりがとつございます。

## 第1問 転校生

西村先生「えー、突然だがここでこのクラスに新しい仲間が増える。」

鉄じ・・・じゃなかった西村先生が衝撃的なことを言った。

FFF団「こんな微妙なときにか？」

「女だといいな」

明久「どんなひとなんですか？」

西村先生「九州から来たらしい」

九州か〜たしかあいつがいたのも九州だったはず・・・

FFF団「男ですか？女ですか？」

西村先生「両方だ」

FFF団「両方？おかまか？」

明久「ねえ、雄二。両方っておかまのこと？」

雄二「んなわけねえだろ。男一人と女一人以上ってことだ」

明久「さすが雄二、元神童なだけはあるね」

雄二「それくらい理解しろよ・・・」

雄二とそんな話をしていると転校生が入ってきた。

えっ、あれって・・・

汐「こんにちは〜九州から来ました。桐谷汐です。」

FFF団「美少女〜」

汐「ってあれ？アキくん？」

汐が僕の方を向く。ついでにFFF団のみんなも僕の方を向く。

雄二「明久、お前の知り合いか？」

明久「雄二、知り合いも何も僕と汐はいとこだもん。」

ヒュン

今僕の顔の横をカッターが通り過ぎたような……

FFF団「ちっ……はずしたか……」

雄二「いところ？お前と桐谷がか？全く似てねえな……」

美波「そうよ、アキ。桐谷さんは美少女だけどアキはねえ……」

ひどいよ、美波……

汐「アキ君、久しぶり〜」

汐が僕に抱きついてきた。

ヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュン  
すると、たくさんの刃物が飛んできた。

明久「畳替えし!!!」

はあ〜危ない。

西村先生「あーお前らもう一人いるんだが……」

あ、忘れてた……

西村先生「では、工藤、自己紹介してくれ」

修也「えー汐と同じ学校からやってきました。工藤修也です。前の

学校では汐と付き合っていました。」

付き合ってただってそれは・・・  
死刑宣告だ・・・

どうせ僕も追われるんだ・・・  
工藤さんに教えてあげなきゃ・・・

明久「工藤君・・・」

修也「ん？」

明久「今、付き合ってたっていったよね・・・」

修也「ああ」

明久「それは・・・」

修也「それは？」

明久「死を受け入れてるようなもんだ!!」

修也「えっ!？」

FFF団「Let's party!!!」

僕たちのほうに刃物が飛んでくる。

まずい、これは逃げなきゃ・・・

明久「逃げるよ。工藤君。」

修也「あ?うん、分かった。」

秀吉「また始まったのう」

雄二「ああ、そうだな」

そんな秀吉たちの声を聞いたところで僕たちは屋上に逃げた。  
あぶないよ・・・

明久side out

修也side in

明久「大丈夫？工藤君？」

修也「ああ大丈夫だ。さつきはありがとな。」

明久「さつき？」

修也「死の宣告を教えてください」

明久「あああれねいつものことだから・・・」

いつものことなのか・・・

そんなこんなでこの日は終わった・・・

## 第1問 転校生（後書き）

どうでしたか？第一話、はじめてなのでダメだしなどがあったら入ってください。

次はみんなの自己紹介です。

## 第2問 召喚獣と試験召喚戦争（前書き）

修也「おれはこんな学校にきてよかったのか……？」

P・S・面倒なのでセリフの前の人名はこうします。

明久 明 雄二 雄 美波 美 姫路 姫 秀吉 秀 ムツツリ

二ム

修也 修 汐 汐 美春 清 久保 久 愛子 愛 優子 優

翔子 翔 鉄人 鉄 葉月 葉

などそんな感じですよ。

## 第2問 召喚獣と試験召喚戦争

次の日の朝おれが学校に行くと馬鹿がいた。もとい、Fクラスの面々がいた。

明「修也、今僕たちのことバカにしたよね？」

こいつは人の心が読めるのか？

修「ああ、そうだが。」

雄「当たり前だろ、おれ達は最低のFクラスだぞ。バカなのは当然だ。」

こいつはクラス代表らしい。

明「ところで、修也はみんなに自己紹介してないよね。」

修「ああたしかにそうだな。」

明「おい、みんな、修也が挨拶したいって。」

ま、おれはそんなこといってないけど……

明「みんな、まずは自己紹介して。」

雄「おれは坂本雄二よろしくな。呼び方は代表でも雄二でもなんでもいい。」

秀「わしは木下秀吉じゃ。言うておくがわしはれっきとした男じゃ。」

男？こいつが？どう見ても女だろ？

瑞「私は姫路瑞希です。趣味は料理です。」

それを聞いた瞬間、男たちが顔を引きつらせた。気がした……ま、気のせいか……

美「ウチは島田美波、ドイツからの帰国子女よ。趣味は……」

可愛い女の子だと思った。が、次の瞬間おれからその感情は消えうせた。

美「吉井明久を殴ることです。」

修「それはどういうこと？」

美「みせてあげるか？」

すると、島田は指をボキボキ鳴らし始めた。

明「や、やめてよ。美波。」

修「もういいです。」

美「そう？楽しみだったのに……」

これ以上は明久がかわいそうなので止めておいた……てか、楽しみにすんなよ……

明「次はムツツリー二だね。」

修「ムツツリー二って？外国人？」

明「ムツツリー二っていうのは愛称で本名は……」

ム「……土屋康太……」

ま、みんなムツツリー二っていつてるしムツツリー二でいいや。

えーと、坂本と木下と島田さんと姫路さんとムッツリー二か・・・  
あ、あと明久・・・忘れてた・・・  
すると、雄二が変なことを言い出した。

雄「今、おれたちはAクラスに試召戦争を仕掛けてるんだ。」

修「試召戦争？なんだそれ？」

明「あ、そうか修也は知らないんだもんね。」

雄「試召戦争は召喚獣で戦う戦争だ。」

修「召喚獣？」

もうなんのことだか分からん・・・

雄「試召戦争ってのは他のクラスと召喚獣で戦って勝ったらこのボ  
口設備と他のクラスの設備と交換することだ。で召喚獣ってのがそ  
の戦いに使う自分の化身みたいなものだ。」

へえー

明「で召喚獣の強さは点数で決まる。」

修「へえー点数でってFクラスって一番不利じゃん！」

なのにこいつらは戦争を仕掛けたって言うのかよ・・・

修「勝算はあるのか？坂本・・・」

雄「おれのことば雄二でいい。あああるともこっちは姫路がいる  
からな・・・」

姫路？姫路がどうしたんだろう？

## 第2問 召喚獣と試験召喚戦争（後書き）

ここまでになります。長いと読者の皆さんも疲れると思うので・・・

**第3問 試召戦争勃発！！！（前書き）**

第2問の続きです。

修「姫路がどうかしたのか？」

### 第3問 試召戦争勃発！！！！

雄「姫路はAクラス並の成績だからな。」

修「へえ〜ってなんでこんなところにAクラス並の奴がいるんだよ。」

Aクラス並だつて？

明「姫路さんは途中退席で0点なんだ〜」

雄「で、決戦は今日の午後だ。」

修「へえ〜って後30分しかないよ!?!?」

こいつらそれなのにこんなに余裕でいいのか？

雄「試合形式は5対5で3ゲーム先にとったほうの勝ちだ。」

秀「わしらは勝てるか心配じゃの〜」

瑞「大丈夫ですよ、私たちなら勝てますよ」

.....  
数時間後.....

高「それではこれからAクラス対Fクラスの試験召喚戦争を行います。1人目は前に.....」

秀「では、わしが行こうかの〜」

優「じゃあ私が行くわ.....」

彼女は明久曰く秀吉のお姉さんらしい.....

優「ちよつと秀吉来なさい。」

秀吉が連れてかれた・・・  
数分後、秀吉は戦えないほどボロボロになっていた・・・  
なので、代わりに明久が出ることになった。  
ああ、負けたな・・・この試合・・・

優「だれでもいいわ。教科は現国で・・・」

高「承認します。」

優・明『試獣召喚<sup>サモン</sup>』

Aクラス 木下優子 現国 367点

vs

Fクラス 吉井明久 現国 ??点

明久の点って何点だろ・・・

Fクラス 吉井明久 現国 76点

勝負は一瞬でついた・・・

高「勝者 Aクラス 木下優子」

明「ごめん、勝てなかった・・・」

雄「大丈夫だ、お前に期待は最初からしてない。」

ま、そりゃそうだろ・・・

明「ひどいよ、雄二!!」

こうして1回戦はAクラスの勝利で終わった・・・

**第3問 試召戦争勃発！！！（後書き）**

汐「私の出番あるかしら・・・」

第4問 2回戦(前書き)

Aクラスとの戦い、2回戦です。

ム「おれがいく・・・」

## 第4問 2回戦

修也 side

バカもとい明久が負けたせいで1回戦がAクラスの勝利で終わり、2回戦が始まった・・・

明「ねえ雄2回戦は誰が出るの？」

雄「ここではムツツリーニに出てもらう。」

なんでムツツリーニを出すんだろう？

高「両者、前に。」

すると、ムツツリーニが出た。

愛「それならボクがいこうかな。」

かなりの美少女だった。

高「では、始めてください。」

愛・ム『試獣召喚』<sup>サモン</sup>

愛「ムツツリーニ君だっけ？ボクの名は工藤愛子。特技はパンチラで得意科目は保健体育だよ。しかも君とは違って実技だね。」

ブシャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

この音ってなんだろう？

みてみるとムツツリーニが血に染まっていた・・・

ああ興奮して出したのか・・・

男としてはロマンだよな・・・

いいな〜ムツツリーニは素直で・・・

明「工藤さんって可愛いし・・・って腕がちぎれるように痛い!」

あつちは島田に処刑されるし・・・

気の毒にな〜

あ、戦ってたんだ・・・

Aクラス 工藤愛子 保健体育 476点

V S

Fクラス 土屋康太 保健体育 ???点

400点オーバー?高すぎだろ・・・

ムツツリーニ勝てるか?この試合・・・

ムツツリーニの点は・・・

Fクラス 土屋康太 保健体育 526点

500点オーバー?やっぱりエロの帝王は違うな・・・

ム「・・・加速。」

高「勝者、Fクラス 土屋康太。」

愛「あーあ、負けちゃったね〜」

ム「・・・おまえはおれのライバル・・・おれに勝つまで誰にも負けるな・・・」

愛「・・・うんっ」

ムツツリーニが恋愛マンガのような恥ずかしいセリフを言って勝った・・・

これで1対1だ・・・

2回戦はFクラスの勝利で終わった・・・

**第4問 2回戦（後書き）**

次は3回戦です。

汐「わたしの出番・・・」

**第5問 3回戦（前書き）**

3回戦です。

雄「これで1対1か・・・」

## 第5問 3回戦

明久 side

ムツツリー二の活躍で1対1で3回戦が始まった・・・

高「両者、前に。」

久「じゃあ僕が行こう。」

出てきたのは学年主席の久保君だった。

雄「じゃあ修也いけ・・・」

明「なんで転校してきたばかりの修也を出すの？」

雄「まあ見てろって。」

雄二のことだ、なにか作戦があるんだろう・・・

高「教科は何にしますか？」

久「総合で・・・」

久・修『試獣召喚<sup>サモン</sup>』

Aクラス 久保利光 総合 3902点

Fクラス 工藤修也 総合 ?????点

もうちょっとで4000点ってバカげた点だな・・・

修也の点は・・・

Fクラス 工藤修也 総合 4500点

450点？少ないな〜ってあれ？0が二つ？4500点？

A『なんであんなのがFクラスにいるんだ？』

明「雄二なに？あの点数？」

雄「あれが修也の実力だ・・・」

瑞「すごいですね・・・私でも4200点なのに・・・」

いいや、4200点でも十分すごいわ・・・

久「でも、操作に慣れてない君には負けないよっ！」

修「へえ〜こうやって動かすのか・・・おらっ」

あっ

Aクラス 久保利光 0点

高「勝者、Fクラス 工藤修也。」

F『やったーーーーー』

明「すごいよ、修也。」

修「ありがとな明久・・・」

まさか、勝てるなんてこれでAクラスにリーチだ・・・

秀「すごいぞ修也よ・・・」

瑞「すごいですー！！」

美「すごいわね。」

これで2対1リーチだ！！！！

**第5問 3回戦（後書き）**

次は4回戦です。

汐「私の出番？」

作「はい、そうです。」

汐「やったーーーーー！」

**第6問 4回戦（前書き）**

4回戦です。

汐「ついに私の出番ね〜」

## 第6問 4回戦

修也 side

おれ様の素晴らしい活躍により、2対1のリーチになり、4回戦が始まった・・・

高「両者、前に。」

佐「私が行きます。」

出てきたのは頭のいい人だった・・・  
って明久が言っていた。

でもAクラスなんだから頭がいいのは当たり前だろ・・・

雄「じゃあ汐いつてこい。」

汐「へ？私？瑞希ちゃんは？」

雄「姫路は今回出さない・・・」

F『えーーーーーーー』

明「なんで？雄二？」

雄「さつき汐に殺されかけて・・・」

明「あとは言わなくていい・・・」

ああ、汐のことだ・・・

雄二を脅したに違いない・・・

いとこの明久だから分かるんだろう・・・

高「教科は何にしますか？」

汐「数学で・・・」

佐・汐「試獣召喚サモン」

Aクラス 佐藤美穂 数学 365点

V S

Fクラス 桐谷 汐 数学 350点

350点か・・・まあ汐ならそれくらい楽勝だよな・・・  
でも明久たちは驚いてるな・・・ま、無理もないか・・・  
汐結構、頭いいしな〜

雄「ちつ・・・Aクラスには及ばなかったか・・・」

数分後

高「勝者Aクラス 佐藤美穂。」

まあ初心者だから勝てないのも無理はないか・・・ 初心者なのに  
勝った人

これで2対2で同点か・・・

次は雄二・・・

勝てるか？雄二？

第6問 4回戦（後書き）

次はAクラス戦の最後です。

修「勝てるか？雄二？」

**第7問 最終決戦（前書き）**

最後です

雄「ついにおれ達の机がシステムデスクに・・・」

## 第7問 最終決戦

明久 side

ムツツリーニや修也の活躍で僕たちはAクラスと2対2で同点になった。ここで勝てばFクラスの机はシステムデスクになる・・・

高「両者、前に。」

Fクラスからは雄二がAクラスからは代表の霧島さんが出てきた。霧島さんって確か女の子が好きなんだよね・・・

高「教科は何にしますか？」

雄「教科は日本史、内容は小学生レベルで方式は百点満点の上限ありだ！」

A「上限ありだつて？」

『しかも小学生レベル。満点確実じゃないか』

『注意力と集中力の勝負になるぞ・・・』

小学生レベルっていくら雄二でもこれは満点確実でしょ・・・

明「なんでそんなに細かいの？」

雄「あいつは一度覚えたことは忘れない・・・逆にそれを利用するんだ・・・」

一度覚えたことを忘れないなら不利じゃないのかな？

雄「ある問題が出たらおれ達は勝ったも同然だ。」

秀「ある問題ってなんじゃ？」

雄「その問題は大化の改新だ。」

美「大化の改新？」

雄「そうだ、おれは昔、大化の改新を625年と教えたんだ。」

明「え？大化の改新って625年じゃないの？」

雄「バカか、お前は無事故の改新で645年だろ……」

高「ではテストを行います。」

雄「私たちは別室でテストを受けることになり出て行った。」

みんなが固唾を吞んでディスプレイに写る問題を見ていた。

《次の（ ）に正しい年号を記入しなさい。》

( ) 年、平城京に遷都

( ) 年、平安京に遷都

小学生レベルの問題いくら雄二でも説けるよね〜  
あれ、どっちが794年だっけ？

( ) 年、鎌倉幕府設立

( ) 年、大化の改新

出た……

瑞「よ、吉井君っ……」

明「うんっ」

瑞「これで私たちの机が……」

F「システムデスクに!!!!!!うおおおおおおおおお」

《日本史勝負 限定テスト 100点満点》

《Aクラス 霧島翔子 97点》

V S

《Fクラス 坂本雄二

53点》

Fクラスの卓袱台がみかん箱になった・・・

## 第7問 最終決戦（後書き）

次は自分で考えたテーマのなにか（未定）です。

明「ゆうー—————ううー—————じい—————」

第8問 合宿に行こう！（前書き）

合宿（？）に行く話

汐「合宿行くわよ！」

明「合宿？」

汐「そう、合宿！」

## 第8問 合宿に行こう！

修也 side

バカ野郎もとい雄二のせいでFクラスのみかん箱になった教室での出来事・・・

汐「ねえねえみんな、みんなで合宿しない？」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修『合宿？』

汐「そう、合宿。私と修也のこと、みんなはよく知らないでしょ？だから合宿をするのよ！！」

明「僕はいいよ。」

雄「おれもいぞ。」

瑞「私もいいです。」

美「ウチもいいわよ。」

島田も普通に可愛いのかな〜

ム「・・・俺も行く。」

秀「わしもいこうかのう。」

修「みんなが行くなら俺も行くぜ。」

ということ合宿をすることになった。でも合宿どこでするんだ？

明「どこでやるの？」

汐「うーん、アキ君の家あたりでいいんじゃない？」

明「家？別にいいけど・・・」

雄「なら決定だ。姫路も明久の家行ってみたいよな？」

瑞「ふえっ！？あ、はい・・・」

明「で、いついくの？」

汐「うん、今日かな？」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修『今日なの(なのか)(ですか)(なの)  
(かの)?』

汐「そう今日よ！」

今日っていきなりすぎだろ・・・

明「それってあれ？思い立ったが切実だっけ？」

明久よ、それは吉日だ・・・といおうと思ったとき

秀「明久よ・・・それを言うなら吉日じゃ・・・」

先にツッコまれた・・・このおれが・・・

汐「まあそんなところよ・・・」

明「みんな、いい？」

雄・瑞・美・ム・秀・修『いい(ぞ)(ですよ)(わ)(・・・)  
(のじゃ)』

明「じゃあ帰ったら午後4時に校門で集合ね。」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修・汐『わか(った)(りました)(っ  
たわ)(ったのじゃ)』

### 放課後

明久SIDE

明「みんないる？」

雄「いるぞ。」

明「雄二なんで霧島さんと工藤さんがいるの？」

雄「翔子はおれが誘った。工藤はムツツリーニがいるからだそうだし．．．」

明「なんで霧島さん誘ったの？ついに霧島さんのことが？」

雄「断じて違う。明久よ、この合宿に翔子を誘わなかったらどうなると思う？」

明「ごめん。」

雄「分かればいい．．．」

こうして僕たちは僕の家に向かった．．．

**第8問 合宿に行こう！（後書き）**

合宿（？）でした。

汐「アキ君の家久しぶりだな」

**第9問 合宿？（前書き）**

明「僕のうちで合宿・・・」

## 第9問 合宿？

明久side

しばらく歩くと僕のうちに着いた。

雄「ここが明久の家か・・・」

翔「・・・・・・・・・・ここが雄二との愛の家。」

一体霧島さんは家で何をするつもりなんだろ・・・

明「ただいま」

雄・瑞・美・修・汐・ム・秀『おじゃまします。』

明「どうぞ、ごゆっくりと・・・でみんなは何日泊まるの？」

汐「私は3泊4日。」

汐がそういうとみんなもそうすると行ってきた。

愛「でなにをするの？」

確かに工藤さんの言うとおりだ・・・

何をするかなんてろくに決まってる・・・

雄「そうだな・・・まず食料調達でもするか・・・どうせ、明久の

うちの冷蔵庫には何も無いんだろ・・・」

明「失礼な！」

瑞「じゃあ何が入ってるんですか？」

明「えーつと・・・醤油・・・」

雄・瑞・美・修・汐・ム・秀『・・・』

僕の言葉にみんながシーンとした・・・

なんで？

雄「やっぱりな・・・じゃあ買出しは誰が行く？」

愛「はいはいボクがいくよ。ムツツリーニ君もいこっ。」

ムツツリーニが工藤さんに誘われてる・・・よし合宿が終わったら  
コ・ロ・ソ・ウ。

雄「じゃあ後は島田と修也に行ってもらおう。」

修・美「えっ!?!」

なんでだろう？

雄「でおれ達は・・・何かしとく・・・」

何って何だろう？

ということ僕たちは家に残ることになった。

愛「じゃあ行ってくるよ〜」

そういうと4人は出て行った。

明「で、なにをするの？雄二？」

雄「何がしたい翔子？」

翔「・・・雄二との結婚。」

汐「私はアキ君との熱いキス〜」

霧島さんと汐の衝撃的な発言に僕と雄二は悶絶した・・・

明「そういうことじゃなくて・・・」

雄「今何がしたいかだよ・・・」

翔「・・・・・・・・私は今雄二と結婚したい。」

汐「私も今アキ君とキスがしたい。」

この人たちは・・・

雄二はそれを無視して、話を進めた。

雄「どうせ、暇だ。なんかして遊んでよう。」

暇ってあの4人に買出しに行かせたのに？

ということまで遊ぶことにした・・・

第9問 合宿？（後書き）

えーと遊びの内容がまだ決まってるないのでここらへんで・・・

第10問 合宿？（前書き）

合宿？です。

修「二人を仲良く・・・（ニヤニヤ）」

## 第10問 合宿？

修也 side

雄二たちに行つて来いといわれて仕方なく買出しに出かけた・・・  
ムツツリー二と工藤はたぶん両想いだな・・・  
よし、二人にチャンスをやろう。

修「いきたい店が二つあるから二手に分かれよう・・・」

愛「えっ？別にいいけど・・・チームわけは？」

修「チームわけはおれと島田、ムツツリー二と工藤だ。」

それにしてもおれも工藤なのに工藤って分かりづらいな・・・  
そんなことより二人きりにしてやるんだ・・・

愛「ボクはいいけど・・・ムツツリー二君は？」

ム「……………別にかまわない。」

ということとで二手に分かれることにした・・・

修「で、どこに行く？島田？」

美「え？決めてなかったの？」

修「まあな・・・」

あれは二人きりにさせるための作戦だしな・・・

美「じゃあ、魚屋さんでもいく？」

修「そうだな。」

んで、おれと島田は魚屋に行くことにした。

魚屋にはいろんな魚が売っており大変混んでいた。

修「じゃあおれなんか買ってくるわ・・・何がいい？」

美「じゃあマグロかな？」

おれはマグロを求めて人ごみを掻き分けていった。

修「おっさん、これくれ！」

おっさん「はいよ。」

おれはマグロをゲットして島田の所に向かった。

修「島田、ゲットしたぞ・・・」

次の瞬間・・・

第10問 合宿？（後書き）

どうなるのか？

第11問 合宿？（前書き）

次の瞬間・・・

汐「何が起こったのかしら？」  
作「この後を見てください。」

## 第11問 合宿？

修也 side

次の瞬間・・・

おれは人ごみに押されて島田のほうに倒れ込んだ。

修「わっ！」

美「キャッ！」

結果として俺は島田を押し倒した・・・  
すると、俺と島田の唇が重なった。

まあ簡潔に言くと俺と島田はキスをした・・・

修「・・・んっ／＼／」

美「・・・っ／＼／」

やばっ・・・おれのファーストキス・・・

美「な、なにすんのよ!」

修「それはこっちの台詞だ!」

美「・・・」

修「・・・」

しばらく恥ずかしさのあまり沈黙してしまっておれ達・・・

修「・・・マグロも手に入れたし帰るか・・・」

美「・・・うん。」

沈黙が続きおれ達は一言も喋らずに明久の家に帰っていった・・・

第11問 合宿？（後書き）

次は工藤 side でお送りします。

修「島田・・・」

第12問 合宿？（前書き）

工藤sideです。

「・・・」

## 第12問 合宿？

愛子 side

どうしよう・・・ムッツリー二君と二人つきりだ・・・

愛「・・・どうする？」

ム「・・・ちよつとよつて欲しいところがある。」

えっ・・・それってボクにデートを誘ってるの？な、わけないか・・・

愛「で、どこいくの？」

ム「・・・いきつけのカメラショップ。」

愛「ボクも買いたいカメラがあるんだよね、良かったらいいカメラ見つけてくれない？」

これできっかけをつかんで・・・

ム「・・・かまわない。」

やった、これでデートが出来る・・・

ボクたちはカメラのキ○ムラに行くことにした。

ム「・・・ついた。」

おっさん「お、康太じゃねえか。今日は彼女連れか？」

ム「・・・そんなじゃない／＼」

照れてるな、ムッツリー二君・・・

それってボクを意識してるってことかな？

ム「・・・・・・・・・・どんなカメラが欲しい？」

愛「水泳部で使えるような防水カメラかな？」

ム「・・・・・・・・・・それならこれとこれ。」

結局ムツツリー二君が見せてくれたのを買うことにした。

愛「ありがとう、ムツツリー二君！じゃあ次どこいく？」

ム「・・・・・・・・・・まだ、よって欲しい所がある。」

愛「へえ、どこ？」

ム「・・・・・・・・・・いいから付いて来い。」

ムツツリー二君に連れられてきたのはすっつっつごく高そうな宝石店だった。

愛「何でこんなところに？」

まさか、恋人にあげるとかかな？そうだったらやだな

ム「・・・・・・・・・・ちよっと待ってる。」

愛「えっ・・・・・・・・うん・・・・」

そういうとムツツリー二君は指輪を買ってボクの所に来た。

ム「・・・・・・・・・・これお前に・・・・・・・・今日のお礼・・・・」

愛「えっ！？ボクに？ありがとう・・・・・・・・でさもうそろそろお前とかさ工藤愛子とかやめてさって呼んでよ・・・・ボクは康太君って呼ぶから・・・・」

ム「・・・・・・・・・・分かった・・・・愛子・・・・／／／」

愛「ありがとう康太君！じゃあ帰ろっか！」  
ム「……………分かった……………」

特に何もしなかったけどボクはすっごく楽しかった。

第12問 合宿？（後書き）

次は明久たちです。

第13問 合宿？（前書き）

明久たちの話です。

### 第13問 合宿？

明久side

4人を追い出して遊ぶことにした・・・

秀吉と姫路さんは料理を作ってるらしい・・・

最悪だ・・・

明「なにをするの？」

雄「そうだな・・・じゃあ明久の好きな人は姫路として・・・塩は誰が好きなんだ？」

明「ちよつと待ってよ雄二それどういうところ!？」

雄「だって、お前の好きな奴は姫路だろ？」

明「ち、ちがうよ・・・」

雄「まあどーでもいい。で汐の好きな人は誰だ？」

汐「私？私の好きな人はアキ君だよ？」

そつだとは思ってたけど・・・

雄「なんだかつまんねーな。なんかしたいか？翔子。」

翔「雄二との結婚もしくは熱いキス・・・」

ダッ

雄二はそのとこを聞いて走り出した・・・

翔「逃げるのは許さない・・・」

霧島さんも走り出した・・・

そんなことをしているとあの4人が帰ってきた。

ん？なんか、みんなの顔が赤いな？

明「おかえり〜」

修・美・愛・ム「／／／」

どうしたんだろみんな無口でしかも顔が赤いし・・・

雄「ところで何買ってきたんだ？」

聞くと美波と修也はマグロなどの魚介類でムツツリーニと工藤さんはカメラを買ったらしい・・・

明「二手に分かれて行動したの？」

愛「うんまあ・・・ね〜康太君？」

ム「・・・そうだ・・・愛子。」

康太君に愛子？二人ってそんな呼び名だったっけ？

僕がそんなことを考えていると雄ニが隣でニヤニヤしていた。

明「はは〜、何かあったようだけど聞かないよ・・・で、修也たちはなんかあったの？」

美「・・・えっ！？べ、べ、べ、別に何にも無いわよ。ね

〜修也！？」

修「・・・えっ、ああうん。そうだよな美波。」

ふとここで僕が思っていたことを雄ニが言った。

雄「お前らみんな呼び方が変わってるがどうしたんだ？（ニヤニヤ

ム「・・・おれ達のことと言えない・・・でも修也たちの

録画済・・・」

修「なんでだよっ！」

ということ僕たちは修也と美波を紐で縛って録画したビデオを見ることにした・・・

数分後

雄「こんなことがあつたんだな・・・／＼／＼」

秀「修也も大胆じゃの／＼／＼」

修「もう死にたい・・・」

美「やめて」

修也たちの恥ずかしビデオを見終ったので夕飯を作ることにした。

夕食はマグロの刺身とステーキその他いろいろだった。

そして、部屋決めの時間・・・

明「家に空いている部屋は4つと僕の部屋かな。じゃあクジ引いて」

クジの結果は僕と姫路さんが僕の部屋、雄二と霧島さん、ムッツリ

一二と工藤さん、修也と美波、

汐と秀吉という結果になった。

これは美味しすぎる展開ではないのか？みんなとっても僕にとっても・・・

第13問 合宿？（後書き）

なんか微妙な所で終わってすみません。

汐「たしかに微妙ね・・・」

第14問 合宿？（前書き）

雄「俺の人生が・・・」

## 第14問 合宿？

明久side

くじ引きのあと雄二が男子だけで集まるうと行ってきたので僕たちは僕の部屋に集合した。

明「みんなを呼び出して何のようなの？雄二？」

雄「おれはこの部屋割りに不満がある。」

秀「わしは問題と思うのじゃが・・・」

ム「・・・特に異論は無い。」

明「僕もいいかな」

修「・・・」

そりゃ姫路さんと同じ部屋になれるなんてラッキーだね。

秀吉も汐とだし嫌そうじゃなかったしムツツリーニは工藤さんとかから本望だろ・・・

でも修也は気まずいだろうな・・・

明「修也は？」

修「おれは今のままでもいいと思ってる・・・」

これで反対派は雄二一人になった・・・

あとは・・・

明「霧島さん。」

翔「なに？吉井？」

明「雄二が桐嶋さんと同じ部屋になるのがいやだって言ってるよ。」

翔「雄二・・・どういこと・・・」

雄「やめる翔・・・あっ・・・頭が割れる・・・」

よしこれで僕は姫路さんと同じ部屋になれるっ！

明「じゃあみんな自室に戻って。」

という事で僕たちはそれぞれの部屋に戻り寝ることにした・・・

第14問 合宿？（後書き）

短くてすみません

第15問 合宿？（前書き）

この間は短くてすいません・・・これからは一人ずつ（男）のs i  
d eで行きたいと思います。

汐「ほんとよ。しかも私の出番無かったし・・・」

## 第15問 合宿？

修也 side

そんなこんなで美波と同じ部屋で寝ることになった・・・  
すんげえ気まずい

修「・・・・・・・・・・」

美「・・・・・・・・・・」

修・美「あの・・・・・・・・」

修「そつちからどうぞ・・・」

美「いやいやそつちから。」

修「・・・・・・・・」

美「・・・・・・・・」

少々の沈黙・・・・・・・・気まずすぎる・・・

美「じゃあ・・・・・・・・あのね今日のことだけど・・・・・・・・ウチはきにしてないから・・・・・・・・あれは事故だったわけだし・・・・・・・・」

修「えっ！？あ、うん。俺も気にしないことにするよ・・・・・・・・」

そつは言ったもののやっぱり気まずい・・・

事故とはいえキスしちやつたんだし・・・

ここはなんかの話を振って気を紛らわそう・・・

修「あ、あの時のキスは初めてだったのか？」

ああああああああああああああああああああああ

おれは何を聞いてんだ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

これは気まずくなること確実だ――――

美「う、うん・・・」

修「そか・・・ごめんなお前の初めて奪って・・・」

美「もういいの・・・済んだことだし・・・」

修「でもなんかお詫びとか出来ないかな？」

美「そ、それならウチと付きあってくれない？」

?????? エイマナンテイイマシタ??????

美「あのね、ウチ、修也とキスしたじゃない？それからあんたのこ  
と見てるうちに好きになつてて・・・」

修「おれはいいぞ・・・」

美「ほんと？ありがと修也。さて今日はもう寝ましょう。」

なんだかんだで俺と美波は付き合うことになった・・・

第15問 合宿？（後書き）

急展開しません・・・

第16問 合宿？（前書き）

雄二sideです

## 第16問 合宿？

雄「side」

明久のせいで俺は翔子と同じ部屋になってしまったわけだが・・・

翔「・・・・・・・・雄二。」

雄「わかったから離れてくれ・・・」

部屋に来た途端抱きつきっぱなしだ・・・おかしい・・・  
いつもならスタンガンでびりびりっとするはずなんだが・・・

雄「どうしたんだ？スタンガンは使わないのか？」

翔「・・・・・・・・使って欲しい？」

雄「いや、結構だ。」

翔「・・・・・・・・そう。」

しかしなんでまた・・・

雄「でも今日は何でスタンガン使わないんだ？」

翔「・・・・・・・・吉井がスタンガンはダメって言うから・・・」

明久がか？珍しいな・・・

雄「それでか・・・」

翔「・・・・・・・・うん。変わりに一緒に寝て？」

そんな風に普通にしてる翔子はその・・・なんというか・・・すごく可愛かった・・・

雄「やだ。」

翔「……でも、布団がひとつしかない……」

そのとおり明久のうちには布団が6つある。明久はそれを修・美・ペア・秀・汐ペアに2つ、おれ・翔子ペア・ム・愛ペアに1つだ。そして明久はベットで姫路と寝る。明久が好意で配ってくれたらしいがそれは有難迷惑だ……

雄「じゃあおれは布団入らない。」

翔「……風邪を引いちゃう。」

雄「それでもいい。」

翔「……風引いたら即結婚……」

雄「不束者ですがよろしくお願いします……」

ということと一緒に寝ることに……あーもうこうなったら早く寝よ……

んっ？なんか体がむずむずする……っていつの間にか翔子が俺の服を脱がしてる……

雄「やめろ翔子。」

おれはそういつて翔子の手を体からはがし振り返ると……  
ほぼ全裸の翔子が寝ていた……

雄「なんで全裸なんだよ。」

翔「……全裸じゃないほぼ全裸……」

雄「そんなこたあどーでもいいなんでほぼ全裸なんだよ？」

翔「……吉井がこれなら雄二もイチコロって……」

また明久か……

雄「とにかく服を着ろ！」

翔「・・・・・・・・わかった。」

ということとで翔子に着替えを着せておれ達はねた・・・

大変な目にあつた・・・

第16問 合宿？（後書き）

次はムツツリーニsodeです

第17問 合宿？（前書き）

ムツツリーニから愛子sideに変えます。

## 第17問 合宿？

愛子 side

くじ引きの結果ボクと康太君が同じ部屋になっちゃった・・・  
しかも布団がひとつだなんて・・・緊張するな・・・

愛「こ、康太君もうそろそろ寝よっか？」

ム「・・・。(コクリ)」

愛「な、ならもう寝よっか・・・」

二人つきりでしかも一緒に布団だなんて・・・

愛「康太君は興奮しないの？」

ム「・・・。お前になんか興味はない。」

そっかそっかだね・・・康太君はボクになんか興奮してくれないんだよね・・・胸も小さいし・・・

ム「・・・。お前に欲情なんてしない(鼻栓をつめているから大丈夫・・・)」

愛「じゃ、じゃあ寝よっか・・・」

ム「わ、わかった・・・」

き、緊張するな・・・血で染まったらどうしよう・・・康太君の・・・

愛「じゃ、じゃあお邪魔します。」

ム「・・・。どうぞ。」

ということと二人で寝ることになった・・・背中を向けて・・・  
まあそうだよな・・・ここらで康太君に刺激でも・・・

愛「ねえ康太君・・・」

ム「・・・なんだ？愛子・・・」

愛「ねえねえボクとシない？」

ム「・・・！！！」

なんていつてみたりして・・・でも康太君はボクなんかには振り向  
いたりしてくれないよね・・・

ム「・・・ほんとか？」

そういつて康太君はこっちを向いてくれた・・・やったよ

愛「冗談だよ」

ム「・・・そうか・・・」

そういう康太君の顔はとてもさびしそうだった・・・

**第17問 合宿？（後書き）**

また中途半端に終わってしまった・・・

第18問 合宿？（前書き）

今回は明久sideです。

## 第18問 合宿？

明久side

くじ引きの結果僕と姫路さんが同じ部屋になれた〜しかもおんなじベットで寝れるなんて・・・

今日、僕は死ぬんじゃないだろうか・・・

瑞「あの・・・明久君・・・その・・・緊張しますね・・・」

明「う、うん・・・」

瑞「あ、あの・・・」

明「な、なに？」

瑞「その・・・緊張しますね・・・」

そりゃ緊張するよ・・・女子と一緒に寝るなんて・・・しかも姫路さんだなんて・・・

明「う、うん・・・」

瑞「じゃ・・・じゃあもうそろそろ寝ますか？」

明「う、うん。」

ということと猥たちは寝ることにした。

瑞「あの〜その・・・寝るときはどうします？」

明「どうするって？」

瑞「向かい合って寝ます？それとも背中を合わせて寝ます？それとも・・・」

明「それとも？」

瑞「だ・・・やっぱりいいです・・・」

明「うん・・・まあいいや。姫路さんはどっちがいい？」

やっぱり姫路さんは背中を合わせて寝たいって言っよね・・・

瑞「わたしですか？私は・・・向き合って寝たいです！」

明「いいの？ていっうかなんで？」

瑞「そのほうがお話とか出来ていいじゃないですか・・・」

明「う、うん。」

まあそっういっうことで僕と姫路さんは向かい合って寝ることにした・・・

瑞「あの〜明久君？」

明「なに？姫路さん？」

瑞「なにか硬いものがあたってるとるんですけど・・・」

明「うわっ！？」「ごめん・・・」

畜生こんな時にたちやがって・・・姫路さんが頬を赤らめてるじゃないか・・・

明「あの、姫路さ・・・もう寝てるよ・・・」

寝顔まで可愛いだなんて・・・今ならキスとかしてもばれないかな？いやいやだめだ、それは本人の了解を得てから・・・姫路さんも寝ちゃったし僕も寝よう・・・

そんなこんなで今日はもう寝ることにした・・・

**第18問 合宿？（後書き）**

また中途半端で終わった・・・

第19問 合宿？（前書き）

次の日の朝・・・

## 第19問 合宿？

修也 side

ん・・・朝か・・・俺が起きると隣で可愛い寝顔で美波が寝ていた・・・今ならキスしてもばれないんじゃないか？・・・もう一回キスしてるんだしいいのか？・・・ええいもうこうなったら一か八かだ！キスしちゃえ！俺は美波にキスをしようとした・・・すると・・・

美「なにやってんの・・・」

修「起きてたのかよ！」

美「起きてたのかよ！じゃないわよ・・・で、何しようとしてた訳？」

美波がジト目で俺を睨んできた・・・

修「ギクツツ！！」

美「ギクツツ！じゃないわよ。なにしようとしてたの？」

ダメだほんとのこと言ったら殺される・・・明久のように・・・

美「で、ほんとの所はどうなの？何しようとしてたの？」

修「そ、その・・・あまりにも可愛いからキ、キスをしようと・・・」

美「そう・・・キスを・・・ってキス？なななななななんでそんな・・・  
・ / / /」

修「そんなの美波が可愛いからに決まってるだろ・・・」

言っちゃまった・・・もう殺される・・・神に祈ろう・・・アーメン・・・

美「ちょ・・・なんで胸の前に手を組んで祈ってるの!？」

修「いやもう殺されるかと・・・」

美「はあくあんたって成績いいけど思考はアキ並よね・・・」

へ？違うのか？

美「はあくもうわかったわよ・・・んっ・・・」

修「んっ!？・・・プハツ・・・」

この瞬間、俺は美波にキスされてた・・・

美「ほら、ポーっとしてないで行くわよ!」

修「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・あ、うん。」

いつものまにか美波が大胆に・・・

まあいい・・・リビングにいそごう・・・明久たちは昨日何があっ

たんだろ・・・

そんなことを考えながら俺はリビングへと向かった・・・

第19問 合宿？（後書き）

汐「私の出演回数が減ってるんだけど!？」

## 第20問 合宿？

明久side

ドキドキの夜が過ぎた翌日・・・

明「あ、みんなおはよう。」

リビングに行くともうみんなが起きていた・・・

雄「遅いぞ明久・・・早く朝飯作るぞ手伝え！」

明「え〜雄二とムツツリーニでつくればいいじゃん。」

雄「いいからお前も手伝え・・・（お前姫路に料理を作らせる気が？）」

きた！緊急用のアイコンタクトだ！

明「え〜どうしよっかな〜（え？どういうこと？）」

雄「いいからお前も手伝うんだよ（多分お前が作らないとなると姫路は作ると言い出すだろうな・・・）」

明「わかったよ・・・（わかりました！手伝わさせていただきます！）」

秀「おぬしらはほんとに自分の命が関わっていると素直じゃのう。」  
ム「・・・素直。」

姫路さんに料理を作らせないために僕と雄二は朝ごはんを作ることになった。

愛「楽しみだな〜吉井君たちは何作るんだろうね？」

翔「・・・私の自慢の夫・・・」

汐「じゃあアキ君は私の夫だね」

女子たちがそんな会話（一部変な会話があったが）をしてる中、修也と美波はなにかしらのピンク空間を作り上げていた。

修「美波。」

美「修也。」

素直な美波がなんか怖い・・・そんなこんなで朝ごはんが出来た・

瑞「美味しいですけどなんか自信を失くします・・・」

美「ウチもがんばらないとね・・・」

なぜか美波はしきりに修也を見ていたけどま、気のせい気のせい美波があんなしおらしい態度をとるなんてありえないしね・・・

明「ねえ朝ごはんも食べたしどうする？」

雄「そうだな・・・みんなは何がしたい？」

瑞「私は何でもいいです。」

愛「ボクも特に無いかな」

ム「・・・とくにはない。」

秀「わしもないのじゃ。」

修・美『美波（修也）とのデート！あ、いやなんでもないです。』

汐「私はアキ君と結婚したい」

翔「・・・私は雄二と結婚したい。」

とまあ特には無いようだ・・・最後の方はちょっと変だが・・・

愛「じゃあ昨日一緒に寝た組でデートに行くってのはどうかな？」

全『デート？』（ちなみに全とは愛子抜きです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6293z/>

---

バカとテストと恋物語？

2012年1月14日01時50分発行